



研究部だより

平成30年2月

事務職員会研究部

寒空の頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年度は権限移譲における事務処理の変更もあり忙しさが増したことと思います。これから年度末を迎えますが、健康第一で乗りきりましょう。

研究部では、事務を「つかさどる」事務職員として、これからの事務職員の在り方や働き方改革を視野に入れて研究を重ねていきます。本年度も研究部活動にご協力いただき、ありがとうございました。



平成29年度 活動報告

研究部では今年度活動プラン「教育課程」を研究の重点として取り組みました。研究部では教育課程を「学校教育目標を具現化するためのカリキュラム、年間の活動計画」と捉えました。「子どもの豊かな育ち」のためには子どもたちの教育に向けた視点からの関わりが必要であり、教育課程編成を理解した上で、事務職員の専門性を生かして関わることでさらなる「教育の質の向上」につながるのではないかと考え研究を進めました。

7月の全体会では、教育課程において教員とは違う視点で、前年度までの反省・評価を生かしながら、計画を編成する段階で関わり、その計画が円滑に効果的に実施されるよう努めることが事務職員の役割だと提案しました。また、静岡市教育委員会教育局次長の高井絢様から、チーム学校の重要性や今後の事務職員に求められることについてお話をいただきました。

先月行われた1月の全体会では、事務職員ならではの視点や専門性を生かし、積極的に教育課程に関わることを提案しました。具体的でイメージしやすい内容であったため、自校で起きたら自分ならどうするかということを考えながら聞くことができたのではないのでしょうか。その後のグループワークでも同様の話題が上がったことと思います。また、静岡市教育委員会学校教育課指導主事の内山健様から、「新学習指導要領における教育課程の考え方」について講義をしていただき、教育課程とは何か、理解を深めることができました。

「事務職員が変われば学校が変わる」...事務を「つかさどる」事務職員として自校の教育課程への理解を深め、主体的な関わりができるといいですね。



平成30年度 活動方針

来年度の研究の重点・・・「学校評価」

★ポイント★

評価と改善の好循環を促進し、教育の質の向上を図る

- 教育評価中心の学校評価に新たな価値観を加え、バランスよく検証する。
- 実態を正確に把握し、的確な予算配分や効果的な条件整備を可能にする。



平成30年度、活動プラン4年目の研究の重点は「学校評価」です。現在、各学校において静岡市学校評価システムに基づいた学校評価が行われています。学校評価全般に行政的視点を加えることで、教育活動にさらなる効果を生み出すために、どのように関わっていくことが「子どもたちの豊かな育ち」につながるのか研究を推進し、理想の姿や形を提示していきます。

来年度も研究部活動にご協力よろしくお願ひします！

